

まえがき

ここに、2020 年度における当研究所の活動実績をまとめた年報 53 号を発刊する運びとなりました。

群馬県では 2020 年 3 月 7 日に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の県内 1 例目の PCR 陽性者が確認され、その後、現在まで陽性者の増減が継続し、2021 年 7 月下旬からは第 5 波というこれまでにない大きな波が押し寄せました。

衛研では、PCR 検査、変異株のスクリーニング検査、NGS によるゲノム解析等を国立感染症研究所、県、保健所、医療機関、民間の検査会社等と連携して検査体制を整備し、積極的疫学調査等、保健所支援も行ってきました。しかし、第 5 波の陽性者数の増加は予想をはるかに超え、医療提供体制も逼迫する事態が生じてしまいました。

群馬県では大規模ワクチン接種センターが 2 箇所設置され、ワクチン接種が順調に進んでいます。一時感染拡大により医療機関は逼迫しましたが、全国的にも感染者は急減し、9 月 30 日に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が全国で解除されました。

今回、新しいタイプの mRNA ワクチンが開発され、短時間で使用できるようになりました。既存の治療薬以外に、抗体カクテル療法の導入や、内服による治療薬も開発されていますが、第 6 波に向けて、検査体制、医療提供体制の再確認が必要です。衛研では新たな変異株を検出できるように NGS によるゲノム解析を継続します。

地球温暖化が問題となり、群馬県でも 2021 年 4 月に気候変動適応センターが設立され、衛研もその一翼を担うことになりました。そんな折、50 年以上前に“CO₂による地球温暖化”を予測した真鍋淑郎博士が 2021 年ノーベル物理学賞を受賞し、コロナ禍における明るいニュースとなりました。これを機会に世界の気候変動対策が進むことを願っています。

新型コロナウイルス感染症により、衛研の業務は大きく変わりました。群馬県衛生環境研究所は、これからも関係機関と連携しながら、困った時に「頼りにされる研究所」を目指して、職員一同努力して参ります。引き続き、皆様方の暖かいご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

2021 年 10 月

群馬県衛生環境研究所長 猿木信裕